

三期目就任挨拶に代えて

服部宗和（新潟）

要旨

キーワード：

「知人(人を知る)のまなこ、知人の力量、いそぎて求むべし」

道元(正法眼蔵・仏経)

<はじめに>

中間法人への移行は、いわば、自由気ままだった海賊船アドラー号から、社会的認知を目指す客船アドラー丸へ変わったようなものだ。内輪だけで深く納得したり、おもしろがったりしていたことを、これからは広く世間に伝えていくことになるだろう。

ふるさと新潟の総会で二期目の役目を終えたが、煩雑な中間法人への移行作業を円滑に乗り切るために、三期目もお引き受けすることにした。

「会長」という役目は、気恥ずかしい程、主導権を取りたい私のライフスタイルに合っていたので、大変気持良く仕事をこなしてきた。さらにライフスタイルは、どんどん引き受けるように命じてくるが、その判断は相当危ない。また、こんなにも目眩めく人生を実感できる貴重な体験を独占するのは我がままというものだ。東日本の活性化という最優先公約はひとまず果たすことができたようなので、今期をもって退きたい。

<池と鯉>

新潟県のほぼ中央部に位置するわが町の唯一の自慢は加茂山公園だ。はるか奥羽山脈に連なる低い丘陵地帯の一面にできた市民の憩いの場だ。その中でも賑っているのが、小さな溪谷を段階的にせき止めて作られた4つの池だ。その池には色とりどりの大きな錦鯉が悠然と泳いでいて、訪れる人の目を楽しませてくれる。

前置きが長くなったが、私は本会をちょうどその池のようだと思っている。専門家が鯉、地域活動の担い手が池の水だ。水がなければ、鯉は泳げない。また、鯉が泳いでいなければ池は只の水溜まりだ。

振り返ってみると、今までの学会活動は、どちらかというと水を貯める事が優先で、鯉の育成までなかなか手が回らなかったように思う。これは入れ物がなければ入らないので当然だ。しかし、水を貯めるだけではどんなに頑張っても、池にならないことがはっきりしてきた。

そんなわけで今後の学会活動が、鯉の育成に重点を置かざるを得ず、かつ急務である現状をご理解頂ければ幸いである。

<鯉の責任>

私は5年前にカウンセラー資格を頂き、鯉の仲間入りをした。しかし、なかなかカウンセリングは上達しなかった。そこで2003年、野田指導者をお願いして、資格保持者の為の練成講座をやって頂くことにした。これからもカウンセリング技量向上の為のチャンスを逃さずに、地道に学んでいこうと思っている。

また、カウンセラーや家族コンサルタントも地域活動の中では、一方的に教える側となりやすく、たて関係に陥る危険性をはらんでいる。それを防ぐ為には、自助グループに積極的に参加し、一生活者として実践及び自己点検を怠らないことが重要だ。

私たちが頂いた資格は、社会的な地位や、自助グループでの優位を保つ手段ではない。人類の知恵を伝える責任を引き受けた証しだ。

七十余匹の鯉たちのさらなる切磋琢磨を願ってやまない。

<水の責任>

私がこの会の代表を任された一番の理由は、鯉でありながら水の責任を同時に引き受けてきているからだ。水の責任はなんといっても、まず自らが『集まる』、『学ぶ』、『育つ』の3点を実践し続けることだ。そしてそこに留まらず、次の段階として『人を集める』、『アドラー心理学が身についた講師を招聘し、学ぶ場を提供する』、『専門家を目指す人材を育てる』の3点が必要だと思う。特に忘れがちなのが、『専門家を目指す人材を育てる』だ。

他派はいざ知らず、アドラー心理学の専門家は地域活動に参加しなければ絶対に育たない。言うまでもないが、日常実践を十分にやりこんだ人だけが、専門家へスムーズにステップアップできるからだ。

今期から学会運営の効率化と、財政的見地から評議員を廃止し、地方区は理事だけとなった。従って、地方会開催は理事だけでは到底不可能なので、ますます地域のお世話役に御協力いただく必要が出てくると思う。

よい鯉が育つには、よい水が不可欠だ。これからも、専門家を目指す人材を育てることに御尽力頂きたいと思っている。

<おわりに>

この4年間、役員、事務局を始めたくさんの方々のご協力を得てやって来ることができた。心より感謝申し上げますと共に、これからも美しい池を維持する為に、変わらぬご支援をお願いする次第である。

更新履歴

2013年2月1日 アドレリアン掲載号より転載